



日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	5
➤ 研究・事例紹介	10
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	13
➤ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介	14

JRRN 事務局からのお知らせ (1) *JRRN Activity Report*

年始のご挨拶

2016 年、新年明けましておめでとうございます。皆様には日頃より JRRN のネットワーク活動にご協力いただきまして大変ありがとうございます。昨年は多くの皆様に携わっていただいた『水辺の小さな自然再生事例集』を発刊することができました。大変好評で大きな反響をいただいています。これから全国各地で河川再生に取り組もうとしている方々にとっては良い指針にもなると思います。

昨年は河川にとって大きなイベントがありました。ひとつは「鬼怒川決壊」です。被害を受けられた方々にはお見舞い申し上げます。そしてこの事件は多くのことを考える機会になりました。もちろん「河川」という存在が恵みだけでなく脅威をもたらすものである事を、忘れてはならないということを実感しました。そしてこのような河川と共に生きる日本人には、「川と付き合う作法」が有ったことも思い出させてくれました。今回、鬼怒川で最初に越流を起こした若宮戸の現場は、私有地であったので自然堤防が削りとられてしまったという報道を聞きました。そんなことが本当に起こってしまったのかと驚かされました。地域には昔から共同で管理してきた大切な土地が在ります。ため池や薪炭林、茅場、作業広場、畦道、街道、神社、仏閣などいずれも共有地として守ってきた場所です。明治維新後、地租改正の際に明治検地が行われ、全ての土地は誰かの所有物として登記されることになりました。この時、地域の共有物である大切な土地は、大地主や大蔵省などの名義として管理されることになったのです。この

ような土地を預かった大地主は地域の大切な共有物を管理する責任の重さと同時に名誉を得たのです。このような土地を所有するという事は、自己のために利用するのではなく、地域のために大切に守り後世に伝えるために所有するのだということの意義と責任が有ったのです。

しかしその後、特に第二次世界大戦後行われた農地解放により、土地は細分化され所有されるようになってしまったのです。祠を建て、森を育て、神が宿る場所として大切に守られてきた自然堤防などの共有地でさえその歴史的意味が人々の意識から消え、所有権があれば何をやっても良いのだと、「作法」を無視したことが起こってしまったのです。

そのほかにも河川の氾濫原に住むための作法として、河川の洪水があっても沈まない高さに盛り土をし、ここに家を建てる「水屋造り」ということも取り込まれてきました。大氾濫があったときには 1 ヶ月程度水が引かないこともあったので、薪炭や食料となる米や味噌醤油なども保存する蔵を造り、ここに籠城したのです。また十分な高さで盛り土ができない場合、建物の 1 階部分を高床構造にしたり、水が上がってきた場合に床や畳を 1 段高く上げられるように柱に桁材を通す穴を開けておき、氾濫の時には中二階を造る準備をしていた家もありました。洪水の時には雨戸は取り外し、水の抵抗を最大限減らすことも行いました。要は洪水とは戦ったり抵抗したりするものではなく、その存在を受け入れ柔軟にやり過ごし、恵みを最大限に受け取るものだったの

です。このような地域で家を建てる時は、堤防よりも高い盛り土をすることが誰もが持つ共通の目標となっていたのです。さらには、どの家にも軒先に船が吊ってあり水没エリアでも行動力を確保できるようにしてありました。この船を上げ舟とか用心舟とか呼んできたのです。

さらには洪水が来る前に便所として使っていた瓶や肥溜めには厚い板の蓋をし、その板が浮き上がらないように大きな石を重石として置いてから避難したのです。この石のことを「廁石」と呼んでいました。この石は漬物石よりも一回りも二回りも大きかったそうです。これが氾濫地域で暮らすことであり、災害と共に生きる文化であり、知恵であり「礼儀作法」でありました。

もうひとつの大きなイベントは「世界工学会2015」の場で JRRN が事務局となって「河川技術が果たすイノベーションと社会貢献」という国際シン

ポジウムを開催出来たことです。昨年11月28日、京都国際会館で、海外からはアメリカ、オランダ、イラン、タイ、韓国、台湾の方々から発表していただきました。世界工学会の参加者からは大変ご好評で最終報告書の発行を楽しみにしていただいています。今後整理して発表いたします。このシンポジウムの詳細は是非ホームページをご覧ください。

今年は、『水辺の小さな自然再生事例』を皆様と学びあう、フィールド学習を引き続き計画しています。現場の体験を通して多くの方々の体験を共有してください。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

JRRN 代表理事 土屋信行

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクト進捗報告 – 「第2回現地研修会@滋賀県」報告書

JRRN では今年度、「小さな自然再生」事例集編集委員会の協力を得ながら、過年度成果の事例集を全国に普及するとともに、本分野の情報交換や交流のコミュニティを構築し、小さな自然再生の仲間と裾野を広げるための普及促進活動を実施中です。先月号で紹介しました、第2回「小さな自然再生」現地研修会（滋賀県長浜市高時川・2015年11月2日（月）開催）の報告書を公開しましたので報告致します。

この開催報告は、小さな自然再生の技術や今後の進め方について、研修会の参加者とともに学び議論した内容の一部を、当日の写真や資料を中心にご紹介するとともに、研修会終了後の滋賀県による試験施工の様子、研修会に参加頂いた滋賀県職員皆様からのご意見や感想も合わせて紹介するものです。

報告書は以下よりダウンロードできますので、当日ご参加頂けなかった皆様にもご活用頂ければ幸いです。

■ 「第2回 小さな自然再生現地研修会開催報告」 (2015年12月発行) はこちらから

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/124>

(JRRN 事務局・後藤勝洋)

「河川技術が果たすイノベーションと社会貢献」国際シンポジウム – 開催報告(11/28)

1. 「河川技術が果たすイノベーションと社会貢献」国際シンポジウムの開催

「河川技術が果たすイノベーションと社会貢献」国際シンポジウムを、2015年11月28日に国立京都国際会館（京都市）で、10名の講演者を招き、約100名の参加者（内50名の外国籍）をもって開催しました。

当シンポジウムは、世界の河川技術に関する情報交換と普及活動を目的として、日本工学会、世界工学団体連盟、日本河川・流域再生ネットワーク、日本建築学会、土木学会の共催と、日本学術会議、国土交通省、アジア河川・流域再生ネットワークの後援を受け、講演中心の2つのセッションとそれら講演を踏まえたパネルディスカッションの3部構成で開催しました。

近年の世界経済における安定は、後発発展途上国の経済発展の基盤づくり、新興国の世界経済の牽引、さらに先進国の経済再生が必要であると言われていま

す。それらを下支えにはインフラ整備・管理などが重要です。

特に我が国は、高度経済成長期以降の防災や環境に配慮した総合的なインフラ技術に支えられ成熟社会に至りました。特に日本のインフラ技術の中でも、河川インフラ技術は、高度な治水・環境保全・利水等に利用され、発展してきました。

これらの実績や知見を、世界各国のエンジニアが集まる世界工学会議の場で共有し、諸外国の減災、環境の保全・再生に寄与するため、世界各国の技術者の集う世界工学会議の開催にあわせて、「河川技術が果たすイノベーションと社会貢献」国際シンポジウムでは各国の河川技術の専門家や関係者が意見交換を行いました。

プログラム

	講演タイトル/講演者
開会	主催/来賓挨拶 玉井信行（実行委員会 委員長、東京大学 名誉教授） 佐藤順一（WECC2015 国内組織委員会 委員長、JFES 会長） 石井弓夫（WECC2015 実行委員会 委員長、JSCE 元会長） 小松利光（実行委員会 委員、WFEO 副会長、九州大学 名誉教授） 塚原浩一（国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画課長）
	主旨説明 伊藤一正（WECC2015 実行委員会 幹事、株式会社建設技術研究所 国際部ほか）
セッション I 河川の防災・減災に関する イノベーション	基調講演：津波被害を軽減させるための弾力性のある海岸構造物の技術革新について 磯部雅彦（高知工科大学 学長、JSCE 前会長） 講演1：災害リスクの軽減と持続可能な開発 -日本の経験を発展途上国へ適用する- 三村悟（JICA 地球環境部副局長、福島大学特命教授） 講演2：災害リスク軽減と持続可能な発展-災害統計データによる事前投資効果の説明- 塚原健一（九州大学大学院 教授） 講演3：西アジアにおける水害ハザード対策の技術革新的な方法について Ali Chavoshian（UNESCO テヘラン都市水管理地域センター 所長） 講演4：台湾における複合土砂災害のための軽減手法の開発 Wen-Chi Lai（台湾 国立成功大学 上席研究員）
セッション II 環境・水利用に関する イノベーション	講演1：オランダからのメッセージ：水力からの防御とその活用 Rob Stroeks（オランダ大使館 技術革新、科学技術部 シニアアドバイザー） 講演2：東京水辺再生-川とまちの一体的空間整備 土屋信行（日本河川・流域再生ネットワーク 代表理事ほか） 講演3：大都市における堰の活用に伴う河川回復と利用の衝突とその湿地への影響 Sukhwan JANG（韓国大真大学教授、アジア河川・流域再生ネットワーク会長） 講演4：『水と緑』の持続可能で住みやすい都市への転換 Hong-Mo Wu（台湾高雄市 副市長） 講演5：バンコクの舟運と水辺開発 Supapan Pichaironarongsongkram（タイ チャオプラヤ・エクスプレスボート会社 会長、スパトラグループ 代表）
セッション III パネルディスカッション	座長：玉井信行、 パネリスト：塚原健一、Ali Chavoshian、土屋 信行、Sukhwan Jang
閉会式	閉会宣言 依田照彦（実行委員会 委員、SCJ 土木-建築委員会 委員長、早稲田大学 教授）

JFES=日本工学会；JSCE=土木学会；JICA=国際協力機構；WFEO=世界工学団体連盟；SCJ=日本学術会議；WECC2015=世界工学会議。

2. 開催内容

開会式では当シンポジウムの主旨に基づいて、主催・共催・来賓のそれぞれの立場で挨拶が行われました。

第1セッションでは河川・水域に関する災害をテーマに、基調講演として磯部学長（高知工大）より津波被害を減災するための海岸構造物の設計要件についてご講演され、続いて防災・減災・復興に対する日本のノウハウを災害に脆弱な途上国へ適応する方法（三村 副局長-JICA）、日本の戦後治水政策の中で水・土砂災害の防止対策における投資効果の検証（塚原教授-九大）、西アジア乾燥地帯に位置する塩湖の水量減少の状況（Chavoshian 所長-イラン UNESCO 地域センター）、台湾の台風豪雨による土砂・水災害の事例分析と災害予測システムの開発（Lai 上席研究員-台湾成功大）について、それぞれ講演を頂きました。

第2セッションでは河川環境の保全・開発に関する5つの講演がありました。オランダにおける異常気象下の治水対策（デルタプログラム）の概要や水力の利用方法（Stoeks 科学専門員-オランダ大使館）、治水と水環境を通じた東京の都市河川計画の歴史的な変遷（土屋理事-リバーフロント研究所）、河口堰の設置に伴い発生した治水と環境保全のバランスの検証（Jang 教授-韓国大真大）、「水と緑」をテーマにした持続可能でクリーンな都市づくり（Wu 副市長-台湾高雄市）、Chao Phraya川の船運と河岸開発の過去から現在までのビジネス展開（Pichaironarongsongkram 会長-タイ Chao Phraya Express Boat）について講演されました。



パネルディスカッションの様子

第3セッションでは、玉井委員長を司会に4名のパネリストを交えて、セッション1と2の講演内容を踏まえて「気候変動下の環境保全と治水における河川技術」について討論が行われました。最後に、パネディスカッションを含めたシンポジウムの取りまとめとして、玉井委員長より気候変動下の壊滅的な土砂・水災害などのリスク管理と河川環境の保全の両立を目指した環境災害リスク管理の概念が提案され、主催者の閉会宣言で当シンポジウムは終了しました。



講演者集合写真



講演者と会場の様子

「河川技術が果たすイノベーションと社会貢献」国際シンポジウム
実行委員会撮影（以下同様）

3. 成果講評

本シンポジウムの成果として、講演録を現在事務局で取りまとめています。

講演録は、2月頃を目処にシンポジウムで配布した予稿集と共にシンポジウムのウェブサイトより公開する予定です（<http://river-innovation.net/>）。

4. おわりに

本シンポジウムは世界工学会議（WECC2015）の開催行事の一環として開催しました。また、本シンポジウムの運営にあたっては、公益財団法人河川財団による河川整備基金の助成を受けて開催することができました。

この場をお借りし、世界工学会開催事務局及び公益財団法人河川財団に御礼申し上げます。

（JRRN 事務局・伊藤将文）

JRRN 会員寄稿 (1) JRRN Member Contribution

台湾河川再生ネットワークのホームページをリニューアル ～河川再生の更なる推進に向けて～

寄稿者：Huang Fu-Hsum (台湾河川再生ネットワーク TRRN 事務局, Water Resources Agency)



台湾水資源計画研究所 (WRPI: Water Resources Planning Institute) は、国内外の河川再生事例を収集するために台湾河川再生ネットワーク (TRRN) のホームページを 2008 年に構築しました。このホームページは、市民に台湾における河川再生に関わる知識を提供するとともに、英語情報として海外に発信することにより、台湾における河川再生の取組みの国際的な認知度を高めることを目的に 7 年に渡り運営してきました。その後 2015 年に TRRN ウェブサイトの運営が WRPI から台湾水資源局 (WRA: Water Resources Agency) の情報管理所へ移管されたのを機に、大幅に TRRN ホームページの刷新を図りました。

今回リニューアルした TRRN ホームページは、これまでの目的を保持するとともに、台湾における河川再生の担い手が必要とするより高度な情報の提供を目指し機能を強化しています。

新たなホームページ構築の方向性や基本指針は、環境教育における 5 つの主要な目標である「関心・気づき (Awareness)、知識 (Knowledge)、心構え (Attitude)、技術 (Skills)、行動 (Action)」に対応させています。まず、ホームページ構築の方向性と基本指針を形成するために、ホームページの潜在的利用者の様々な事例情報に対するニーズを意識した工夫を凝らしました。

ホームページでは河川再生に関わるニュースを定期的に発信しながら、「川の知識」ページは川への関心高揚を、「研究出版」ページは知識を提供し、更に「相互交流」ページを通じて川の美化や技術に対する心構えを強化し、最終的には河川再生の行動へと繋げていくように設計しています。ホームページを利用した市民が河川に対する新たな知識を習得することで、結果的に市民が川を愛し、川を大切にしていくことに繋がっていくという望みを託しています。

以上が今回のホームページリニューアルで特に強調したい点ではありますが、本ページの最終目標が利用者の演習機能にのみ集中している訳ではありません。

新たなホームページは主に次の 9 つのセクション (ニュース、河川再生とは、生態工学とは、河川景観とは、相互交流、研究出版、川の基礎知識、TRRN について、関連リンク) に分かれています。

<http://trrn.wra.gov.tw/>

1. ニュース(News)

国内ニュース、国際ニュース、学術セミナー、水辺の活動

2. 河川再生とは(River Restoration)

河川再生事例、プロジェクト成果、記録誌、河川回廊、視察&評価、国内外の事例研究

3. 生態工学とは(Ecological Engineering)

事例紹介、設計指針、魚道の解説

4. 河川景観とは(River Landscaping)

生態景観、生態ツアー、河岸植生、川のフォトアルバム、川のビデオ

5. 相互交流(Interaction and Exchange)

専門家コラム、電子河川情報、水の知識交換、Q&A機能、RSS機能

6. 研究出版(Research Publication)

出版物、定期刊行物、論文、修士 or 博士論文(関連ファイルのダウンロード含)

7. 川の基礎知識(River Knowledge)

中央政府が管理する河川、自治体が管理する河川、河川現況調査、水辺レクリエーション、環境教育情報

8. TRRN について>About Us)

運営者連絡先、本ホームページの概要紹介

9. 関連リンク(Related Links)

関連法令、NGO、その他リンク

この他、新たなホームページでは、これまで WRPI により実施されてきた Erren 川、Houlong 川、Bie 川における優れた河川再生事業を紹介するショートビデオも閲覧することができます。将来的には、民間、学術団体、政府機関が努力し取り組んできた河川再生の軌跡を市民と共有していくツールになることを目指しています。このホームページの内容は、多方面からの提供(寄稿)情報の利便性を高めるため、WRA ニュースレター電子版にも集約しています。

他のホームページから TRRN のホームページにデータを掲示(転載)する際には、内容と形式が合致しているかのチェックが行われています。更に、ホームページ内の情報の不連続性(不整合)を回避するため、両ホームページ間の情報の質の一貫性も合わせてチェックしています。必要に応じて転載情報の編集も行いながらホームページ内の質の向上を図り、利用者の再訪率を高めるための掲載情報の統合化に特に注力を行っています。加えて、不完全な情報の掲載を避けるため、相応しいテーマに準拠した魅力的なコンテンツとすることにも努め、随時実施するホームページへのアンケート調査結果を新たな改善に活用しています。

結果的に、本ホームページ推進の目的は、世界中の国・民間機関が方策と戦略を模索している気候変動や水不足など地球レベルの異常気象の課題に対する市民の意識の高揚でもあります。

水循環において、河川は人々に最も近い存在です。すなわち、雨が集まり川を形成し、その川が海へと流れていくように、水資源や河川環境の利用が人々の生活に密接に関係しています。しかし、この大切な河川を政府が単独で維持し、保全し、再生していくには限界があります。川の貴重な資源の持続的な利用は、我々の生活が依存している河川を保護するために必要となる知識を理解した市民の貢献により達成することができるのです。

私たちは TRRN が Water Resources Service Cloud の一員となることを歓迎しています。この Water Resources Service Cloud は、WRA が毎週発行する水資源関連の記事を統合した電子レター「水資源ナレッジ・データベース」に基づくもので、ここで紹介される様々な知識は「河川水資源知識ホームページ」を介して相互リンクされ、台湾の Water Open Data Platform に公開される仕組みとなっています。

オンラインでの様々な交流を促進するために「E-river Water Knowledge Exchange Fan page」が構築されており、河川の維持、保全、再生に特化した TRRN がこの仲間に加わることで、このシステム全体の更なる包括性の向上が期待できるでしょう。

※翻訳担当: JRRN 事務局(和田彰)

1月



阿修羅の流れ



銚子大滝



あの日のあの川 リレー日記 ～第11話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第11話主人公 有木 吾郎

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直) 研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：埼玉県荒川)

「奥入瀬溪流の思い出」

いつのこと？： 大学生時代

どこの川？： 奥入瀬川

奥入瀬川は十和田湖に源を発し、青森県を流れ太平洋に注ぐ河川である。十和田湖からの約14kmは奥入瀬溪流と呼ばれ、国の天然記念物に指定されている。

私は大学院1年の夏休みに奥入瀬溪流を訪れた。美しい川の流れを横目に、緑のトンネルの中をゆったりと散歩した。鮮やかな深緑と川のせせらぎを全身に感じ、心が洗われたのを覚えている。特に印象に残っているのが奥入瀬溪流随一の景勝である「阿修羅の流れ」である。勢よく流れ出る清流が生み出す白波と、それを包み込む深緑とのコントラストがとても美しかった。川の実感できる、全国有数の景観スポットではないかと思う。また、滝も点在しており、中でも銚子大滝の迫力には圧倒された。ナイアガラの滝に似ていることから、「ジャパニーズ・スモール・ナイアガラ」と呼ばれているそうである。そのほか、巨大な一枚岩や多種多様な動植物など見所が満載であり、川好きにはぜひ訪れてもらいたい場所である。

また、水源である十和田湖の景色も素晴らしかった。「十和田ブルー」と呼ばれる青い湖面はキラキラと輝き、見ただけで清々しい気分になれた。お昼に食べた天然のヒメマスはとても美味しく、今で

もその味を覚えている。

私は自然が大好きで、毎年夏に一人旅に出かける。騒々しい都会での生活に疲れたとき、一人旅に出かけると心がリセットされるように感じる。そして本当の自分に戻れる気がする。この年は青森県を3泊4日で訪れ、レンタカーで気の向くままに各地を訪れた。青森の美しい自然と澄んだ空気、そして美味しい郷土料理を堪能することができ、最高の旅になった。レンタカーを借りて旅するのが初めてだったということもあり、今まで経験した旅の中でも特に印象に残っている。

私は現在、川を対象に研究を行っている。森林間伐によってもたらされる河川流量変化に注目し、その経済的な効果を調査している。自然環境に貢献できる研究がしたい、というのが現在の研究テーマを選んだ動機である。しかし、都会での生活に慣れてくると、自然に対する愛着を忘れてしまうことがある。都会で大自然に触れる機会はほとんどなく、その存在を忘れてしまうのかもしれない。だから私は毎年一人旅に出かけ、自然と触れ合うようにしている。大自然を目と心に焼き付け、本当に大切なものは何か、守るべきものは何かを忘れないようにしている。奥入瀬溪流の美しい流れは、1年以上たった今でも鮮やかな映像として私の心の中に残っている。この美しい自然を後世に残していくことが、私たちの使命であると感じている。

私も来年からはいよいよ社会人である。環境問題の解決に貢献したいという思いで素材メーカーを選んだ（素材には世界を変える力があるんです）。社会に出てからはどんなにつらい状況に追い込まれても、自分に与えられた使命を果たさなければならないと思っている。でも、もしその覚悟が揺らぎそうになったときは、再びこの川を訪れてみようと思う。

（次は高鳥圭亮さんにバトンを託します）



緑のトンネル



十和田湖



両岸に迫る断崖

水辺からのメッセージ No.80

岡村幸二 (JRRN 会員)

葦原の景観：

かつて生活の糧であった葦原を手漕ぎ舟で水郷の里めぐり



撮影：2015年12月（滋賀県近江八幡市）

◆ 静かな水郷の風景

琵琶湖に隣接する湿地帯の湖は“内湖”と呼ばれていますが、昭和の干拓でかなりの面積は埋め立てられてきました。近江八幡の北之庄や円山の周辺にある西の湖は、平成20年にラムサール条約にも登録されている場所で、今でもヨシの刈り取り生産が行われている地域です。

◆ 水郷を守るための切り札として

平成17年4月の文化財保護法の改正により、文化的景観とは「地域における生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」とされ、近江八幡の水郷は重要文化的景観の第1号となりました。

 JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

「遠賀堀川の未来を考える輪い和い話し夢会議 2015」開催報告と現地調査

筑波大学白川（直）研究室（JRRN 団体会員）

遠賀堀川プロジェクトチーム

1. 訪問概要

2015年12月12日（土）～13日（日）の2日間、筑波大学の学生8名が福岡県を訪問しました。12日ははじめに1時間程度遠賀堀川沿いを歩き（図1）、現状を把握しました。その後、ワークショップ形式の「遠賀堀川の未来を考える輪い和い話し夢会議 2015」の運営を行ないました。13日は夢会議で出された意見を基に現地調査を行いました。

2. ワークショップ開催の経緯

遠賀堀川は福岡県内を流れる遠賀川水系の一级河川で、江戸時代に開削され歴史のある河川として地域に親しまれてきました。しかし、現在は流路が分断されているため、ほとんど水の流れない川となっただけです。また、無機質な護岸が連続して続いたり、JR折尾駅前の区間が暗渠化されていたりと、親しみにくい環境となっています。

このような現状を変えようと、地域の有志による「遠賀堀川再生の会・五平太」が長年にわたり啓発や清掃活動に取り組んできました。2012年12月からは本研究室に遠賀堀川プロジェクトチームを発足させ、地元の方々や北九州市立大学と協力して活動してきました。2013年7月には「遠賀堀川の未来を拓くシンポジウム2013」、2014年には全4回にわたる「遠賀堀川の未来を考える輪い和い話し夢会議」および北九州市長への提案式が行われ、行政や大学を交えた積極的な話し合



図1 ワークショップ開始前の川歩きの様子

いが開催されました。この背景をふまえ、今年度のワークショップでは主に遠賀堀川の水環境について考えました。

3. ワークショップ

(1) ワークショップ概要

12月12日（土）15:00～17:00 ドルフィン折尾にて行いました。当日は寒い中ではありましたが、地域住民、行政、学生というさまざまな立場の20名の方に参加していただきました。図2に今年度のワークショップの案内チラシを示します。

(2) ワークショップの目標

今年度は遠賀堀川の水環境にはどのような問題があるか、また具体的にどのように解決していけばよいかを考える事を目標としました。当日は3班に分かれてそれぞれの班内で議論を行ない、結果を共有しました。

遠賀堀川の未来を考える
輪い和い話し夢会議
2015

～歴史ある川の活用を目指して～

入場無料

2015年12月12日（土）
15:00～17:00

会場 ドルフィン折尾
(折尾駅北口徒歩1分)

主催：堀川再生の会・五平太
共催：北九州市立大学地域戦略研究所
筑波大学白川研究室
後援：国土交通省九州地方整備局遠賀川河川事務所、
福岡県北九州市整備事務所、
中間市、水巻町、古賀川図書館、日本河川・流域再生ネットワーク

図2 ワークショップ案内チラシ

(3) プログラムおよび内容

ワークショップのプログラムを表1に示します。開会にあたり、まず「堀川再生の会・五平太」の中村恭子さんが主催者として挨拶をしました。

続いて「こんな川の姿にしたい」では、参加者の方々に理想の遠賀堀川を絵や文書でかいていただきました。「堀川をディズニーランドのように遊べる川にしたい」、「川沿いに紅梅並木にしたい」など、思い思いの遠賀堀川の理想が示されました。

「遠賀堀川の活用案と川の深さ」では、「住宅地」「河守神社前」「折尾高校前」「折尾駅前」の4カ所について理想の水深を考えました。これらは昨年度のワークショップで行われた水量プログラムを参考に行なわれました。また、その水深によってできるイベントやメリット・デメリットを考えました。イベントでは「川ひらたを浮かべたい」、「高校生向けの軽食店を出したい」など、歴史や学生を意識した意見も多く上がりました。メリット・デメリットについては「水量が増えることで景観が良くなる」という前向きな意見がある一方で、「子供たちが安全に遊べる水量が良い」「洪水対策のために水量は現状でよい」という意見もありました。

「雨水利用の可能性」では、遠賀堀川の水を増やす方法として雨水活用案を筑波大学の学生が提示し、住民の方に意見を伺いました(図3)。その後、班ごとに雨水利用のための貯留タンクの設置場所や実現性を検討しました(図4)。筑波大学の事前調査ではわからなかった、地元の方々が知っている新たな湧水や貯水池などの候補地が多くでてきました。候補地については13日の現地調査で実際に見に行きました。一方で、水利権に触れないという大きなメリットがある雨水利用ですが、貯留タンクの設置の工事や管理をどのようにするかなどの問題点も挙がりました。

表1 ワークショッププログラム

1	開会あいさつ(中村恭子)
2	こんな川の姿にしたい
3	遠賀堀川の活用案と川の深さ
4	雨水利用の可能性
5	意見交換会
6	閉会のあいさつ(中村恭子)

「意見交換会」では、他河川からの取水や工業用水など、雨水利用にはこだわらず遠賀堀川の水を増やす方法を考えました。「一定量を随時確保できる工業用水は望ましい」といった意見がある一方で、「水量は大雨による洪水があるから現状でよいから、水量よりも水質や河道形状を改善するべきだ」などという意見も挙がりました。

閉会に中村恭子さんよりあいさつをいただき、参加者全員で集合写真を撮り(図5)「遠賀堀川の未来を考える輪い和い話し夢会議2015」を終了しました。



図3 筑波大学生による雨水利用についての提案



図4 班別議論の様子



図5 集合写真



図6 折尾駅北口付近にある小さな水路

できそうな現在は使われていない空き地や広場などを中心に確認しました(図7)。実際に現地に足を運ぶことで、事前調査では見つけれなかった空き地などもありました。そこにはどれくらいの水をためることができるか、また、そこから遠賀堀川までの距離がどれくらいあるかなども記録しました。

5. 今後に向けて

今回のワークショップで参加者の遠賀堀川に対する想いおよび水量に関する課題が整理できたと思います。現地調査の結果も踏まえ、来年度も今回のようなワークショップを開催し、みなさんの理想の遠賀堀川に少しでも近づけるように活動していきたいと思います。

(筑波大学白川(直)研究室

遠賀堀川プロジェクトチーム:

森本健太、坂本貴啓、鴨志田穂高、石川弘之、佐々木洸、佐藤達裕、平尾真菜、藤原誠士、前田紗希、守谷賢人、山田怜奈、白川直樹(指導教員)

* 今回の訪問者: 森本、石川、佐々木、佐藤、平尾、藤原、前田、山田)



図7 貯留タンク調査の様子

4. 現地調査

12日に行われたワークショップの結果および筑波大学の事前調査に基づき、13日に筑波大学の学生と学園&地域交流ネットワークの方1名で現地調査を行いました。当日は、前日のワークショップで出された水源の候補地を回る班(1班)と、筑波大学で事前調査した雨水利用のための貯留タンクの設置個所を見て回る班(2班)の2班に分かれて調査しました。

—1班の調査内容—

折尾駅北口の近くには、小さな水路(図6)があり水質の良好な水が流れていました。また、河守神社付近にもきれいな水が流れ込んでいる箇所がいくらかありました。今回見た箇所では水量は少ないですが、水質がきれいな箇所が多く、遠賀堀川の水源として活用できそうだと思います。

—2班の調査内容—

事前に調査した内容を基に、貯留タンクとして使用

<https://www.facebook.com/ongahorikawa>
遠賀堀川プロジェクトのfacebookもご覧下さい。

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 筑後川・矢部川・嘉瀬川流域史研究会 第2回研究発表『三河川の水運の歴史』(1/23 開催)

古賀河川図書館の古賀館長より、研究発表「三河川の水運の歴史」のご案内を頂きました。

■日時：2016年1月23日(土)
12:30~16:00

■場所：筑後川防災施設「くるめウス」(福岡県久留米市)

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2273.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■ 福井県一乗谷川が「土木学会デザイン賞 2015」最優秀賞を受賞

福井県建設技術研究センターより、福井県の一乗谷川が「土木学会デザイン賞 2015」最優秀賞に輝いた受賞報告が届きました。

2015年の最優秀賞の受賞、おめでとうございます！

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2283.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■ 石井樋 400 年祭シンポジウム-成富兵庫茂安と加藤清正 (2/7 開催)

古賀河川図書館より「石井樋 400 年祭シンポジウム-成富兵庫茂安と加藤清正」のご案内を頂きました。

■日時：2月7日(日)
13:00~16:30

■場所：佐賀市文化会館 (佐賀県佐賀市)

■参加費：無料

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2295.html>



【海外からの提供情報】

■ 「RRC (英国河川再生センター) 最新ニュースレター」ご紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2015 年 11 月号) が事務局より届きました。

本号では、RRC 年次講演会の暫定プログラム、流域パートナーシップ人材育成ワークショップの案内、RRC 事務局メンバー異動報告などが紹介されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2280.html>



【海外からの提供情報】

■ 「欧州河川シンポジウム 2016(European River Symposium 2016) @3/3 ウィーン」ご紹介



2016年3月3日(木)にオーストリア・ウィーンで開催される欧州河川シンポジウム開催案内が事務局より届きました。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2292.html>

【海外からの提供情報】

■ 「RRC (英国河川再生センター) 最新ニュースレター」ご紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2016 年 12 月号) が事務局より届きました。

本号では、Hexham 魚道の完成報告、英国を襲った洪水に関わる関連機関での報道内容等が紹介されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2299.html>



会議・イベント案内 (2016年1月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■ 国土政策フォーラム in 三重：森と水の循環を考える

○日時：2016年1月9日(土) 13:00-15:40

○主催：国土交通省・三重県

○場所：三重県総合文化センター (三重県津市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2293.html>

■ 第2回研究発表『三河川の水運の歴史』 ※前頁参照

○日時：2016年1月23日(土) 12:30~16:00

○主催：筑後川・矢部川・嘉瀬川流域史研究会

○場所：筑後川防災施設「くるめウス」(福岡県久留米市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2279.html>

■ 平成27年度 川づくり団体全国事例発表会

○日時：2016年1月29日(金)

○主催：公益財団法人 河川財団

○場所：東京大学山上会館(東京都文京区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2287.html>

■ 流域管理シンポジウム－流域のこれからをみんなで考える

○日時：2016年1月29日(金) 13:00~16:30

○主催：関西広域連合

○場所：グランキューブ大阪 10階(大阪市北区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2297.html>

■ 平成27年度 河川教育研究交流会

○日時：2016年1月30日(土)

○主催：公益財団法人 河川財団

○場所：東京大学山上会館(東京都文京区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2289.html>

■ 第十一回「外来魚情報交換会」

○日時：2016年2月6日(土)~7(日)

○主催：琵琶湖を戻す会

○場所：滋賀県草津市立まちづくりセンター(滋賀県草津市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2252.html>

■ 石井樋400年祭シンポジウム ※前頁参照

○日時：2016年2月7日(日) 13:00~16:30

○主催：NPO 法人嘉瀬川交流軸

○場所：佐賀市文化会館イベントホール(佐賀県佐賀市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2295.html>

■ 2016年度河川技術に関するシンポジウム

○日時：2016年6月2日(木)~3日(金)

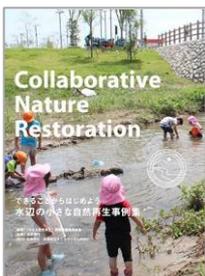
○主催：公益財団法人 土木学会

○場所：東京大学農学部 弥生講堂(東京都文京区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2291.html>書籍等の紹介 *Publications*

■ できることからはじめよう 水辺の小さな自然再生事例集 (2015.3 発刊)

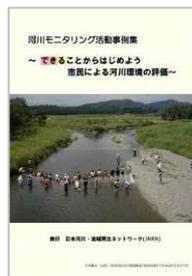
- ・監修：玉井信行 東京大学名誉教授 / JRRN 顧問
- ・編集：「小さな自然再生」事例集編集委員会
- ・デザイン：本間由佳 鶴川女子短期大学
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・出版年月：2015年3月



市民が河川管理者と連携して日曜大工的に取り組む「小さな自然再生」の事例集です。小さな自然再生の専門家の方々、専門知識の社会への橋渡しの専門家、そして有志の若手研究者や実務者で協働制作しました。

■ 河川モニタリング活動事例集～できることからはじめよう 市民による河川環境の評価～ (2014.3 発刊)

- ・監修：白川直樹 筑波大学准教授(JRRN 理事)
- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直)研究室
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■ 上記冊子の「印刷製本版」入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週1回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2015年12月31日時点の個人会員構成

(個人会員数：722名、団体会員数：57団体)

※12月の新規入会数：個人会員0、団体会員1

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階 (公財)リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。



建設技術研究所
国土文化研究所